

政治資金残りあと

245,988円

情報公開の第一歩 政治資金を見えるようにします。

前回までの残高	150,573円
印刷代（ビラ印刷代）	20,042円
交通費（駐車場、燃料代）	6,120円
通信費（携帯電話、郵送費）	53,723円
勉強会費	700円
自己資金	-100,000円
寄付	
おぎ、みち、トリウミ、シザリ、ムロフシ様	-76,000円
合計 00/12/2～01/1/5	-95,415円

市政を考える 月刊武松

発行日
01/1/9

第19号

たけまつ ただし
頒布責任者： 武松 忠
武松政策研究会

なぜ行革するのか！？

12月本会議から！

小田原市議会12月定例会が開催されました。

平成11年度の各会計の決算の認定、補正予算の採決、そして条例議案としては新たに次の2件が制定されました。

・市民活動サポートセンター条例

市民会館4階に設置されるサポートセンターの設置、管理に関する条例を制定。

・中高層建築物等の建築及び開発事業に係る紛争の調整に関する条例

地域社会における良好な近隣関係の保持を図ることを目的として、中高層建築物等の建築等に係る紛争の調整のために行うあっせん及び調停に関する必要な事項を定めるため制定。

また、公共料金関係では、一般廃棄物の処理手数料や下水道使用料（14.45%UP）の引き上げが了承されました。

一般質問では、私は、冒頭にビジョン21おだわらの感想（どういう都市を目指しているのかイメージが湧かない点を指摘）を述べ、次の項目で質問いたしました。

1（1）行政改革の見直しについて

なぜ行政改革するのか？を市長に問いましたが、市長の基本的な考え方を述べ、最終的には行政改革市民会議の答申を待って実施するという回答でした。

2 家電リサイクル法施行に伴う諸問題について

（1）市民への周知方法について

（2）近隣市町との連携について

システムが複雑な上に、廃棄手数料が、リサイクル料＋運搬料で従来の1000円が5～7倍にも跳ね上がるため、その周知や不法投棄の防止について問いました。廃棄手数料や不法投棄については近隣市町と連携をとり、広報やパトロールに努めるという回答でした。

3 ダイオキシン類の対策と今後の対応について

（1）焼却施設改修に伴う解体時のダイオキシン対策について

大阪の解体作業員のダイオキシン血中濃度が高くなった事件と同じ業者が施工しているため問題がないか問いましたが、労働基準監督所の指導の下、厳密に教育や管理が行われているという回答でした。

（2）市内ダイオキシン類調査結果と今後の対応について

今年度は、県が小田原市役所、市独自で消防本部（前川）で2回の測定（年間4回実施）を行っており、共に基準を下回っていること、県が今年度西湖地区で行ったダイオキシン類環境実態調査（市内7小学校＋塔ノ峰青少年の家）についても同様に基準を下回っていることが報告されました。

また、少なくとも焼却炉の改修工事が終了するまでは、市独自で行っている消防本部での測定を継続するよう要望しました。

世紀頭所感！？

21世紀を迎えて、小田原がどういう方向性を持たなければならないか考えました。まず今世紀中には、必ず大地震が小田原を襲うでしょう。都市基盤である道路、下水道はもとより、人命が失われることを最小限にしなければなりません。

「災害に強い都市」が小田原の第一の方向性だと思いました。

（こんな事を考えていたら初夢は大地震でした。）

小田原市の問題点

- ・他市に比べ非常に多い都市計画費（特に下水道）
- ・どういう都市になるのか、どの計画が優先度が高いのか、明確に伝わらない総合計画（ビジョン21おだわら）

教育のベースにあるもの①

12月の勉強会で「教育のベースにあるもの」を行いました。主な内容は、各成長過程における経験しておかなければならないこと、そして、その重要度をエリクソン（心理学者）の論理をもとに説明しました。対処療法的な教育論議も必要ですが、そのベースにあるものをしっかりと捉えておくことも非常に大切です。今後、シリーズで掲載します。

■第Ⅰ段階（0～15ヶ月頃）

基本的信頼 ポジティブ（＋）な面

この時期は、身体的生存のためにも、情緒的安定のためにも親（又は代わりとなる人）を必要とし、完全に依存している状態。

お母さんが、泣くと来て、空腹を満たしてくれる。オムツを換えてくれる。抱っこしてくれる。あやしてくれるなどの経験を積み重ね不快を訴えると快い状態

に変化するという確信が芽生えてきます。そしてお母さんの存在と、自分の要求に気づいていきます。

快い体験を繰り返すことで、生きることへの安心感、さらには、自分や人を信頼することができるようになっていきます。これがこの時期の発達の課題である「基本的信頼」の確立です。

基本的不信 ネガティブ（－）な面

要求が無視され、満たされないことが繰り返されると、自分自身の存在の危機感、恐ろしい不安として深い無意識の部分に染み付いてしまい不信となります。自分をしっかりと包み込んでくれる世界を得られないと「見捨てられる不安」につながっていきます。

この時期の快い体験で、お母さんも子供も心が満たされるという母子関係の確立が、心の根源的な安定感と、その後の人間に対する信頼感を生み出す基礎となっています。

大切なことは、ポジティブな面とネガティブな面を両方経験し、差引き＋になっていることです。

The Voice 今までに頂いたご意見から

市立幼稚園の募集人員は、増やすことができないか？

市内在住

30代女性

子供と仲の良い子が、抽選漏れで入園することができない予定です。中には、空きが出るまで待つ方もいるようです。そうすると入園時の集合写真がなかったり、学習の遅れも危惧されます。厳しい経済状況の中、私立の保育園では保育料も市立幼稚園の3倍近くになるため大変です。

まず定員は、学校教育法の幼稚園設置基準によって35人以下と決められています。2学級であれば定員は、最大70名となり、また園舎や運動場の面積も学級数で決められています。

従来は40人定員でしたが、移行期間の期限である平成13年からは全て35人定員となります。

空き学級や運動場に余裕があれば別ですが、1学級増やすために、園舎の増築や運動場の拡大など莫大な投資が必要となる場合もあります。ですから、**定員を増やす＝学級数を増やす** となるため、定員増は非常に困難であるのが現状です。ここで市立幼稚園の特徴を整理してみます。

①**6幼稚園ある。**（酒匂、東富水、前羽、下中、矢作、報徳）

②**学区がある。**（園により通園区域が決まっています。）

③**募集人員を超えたときは公開抽選**（抽選で1～応募者全員の順位をつけ、空き待ちもその順が適用）

市も募集人員を超えた場合は、近隣の私立幼稚園に働きかけ、希望があれば入園できるよう対処しています。

武松政策研究会 月例勉強会のお知らせ

テーマ：「教育の時代背景」

教育を取り巻く環境の変化をみんなで話し合しましょう。

日時：1月20日（土） 18：00～20：00

場所：小田原市民会館6階 第3多目的室

参加費：100円 出欠席の連絡は、不要です。当日、直接現地に来て下さい。

終了後、懇親会（実費3000円程度）を行います。

注）2月の月刊武松と勉強会は、行政視察等のためお休みいたします。



会員募集！ 後援会員を募集しています。年会費103000円で上限は10回とします。

会費は月刊武松の制作や発送、勉強会の運営、交通費等に充てられます。

振込先：さがみ信用金庫 ダイバープラザ出張所 普0051228 武松政策研究会 武松忠 まで！